



行事で学べたことを次につなげる

副校長 鈴木 巧

前回の学校だよりにも掲載しましたが、10月は修学旅行(3年)、職場体験(2年)、校外学習(1年)、全校行事では学習発表会が行われました。文化発表会での各学年の発表(校外学習、移動教室、修学旅行)は動画、クイズ、劇とどの学年も特徴があり見応えがありました。弁論大会は、伝える力を発揮し、自分の考えをまとめて、聞く人を惹きつけ、言語に変える発表者の技術に引き込まれました。また、吹奏楽部の演奏では会場全体を巻き込み、手拍子ありアンコールありと日頃の練習の成果を発揮した美しい音色は圧巻でした。今回の合唱コンクールは全てのクラスで生徒の誰もが重要な役割を担っていたことを感じられた素晴らしい行事となりました。練習期間を通して、一人ひとりの些細な行動にも、「自分のクラスの合唱を良いものに変えるため」という気持ちがみんなにあったはずです。例えば、さらに良い合唱にするために何かできないかと指揮者や伴奏者に聞いてみたり、パートリーダーと話し合ったりしたと思います。合唱を聴いてくれる人々に本当に良い合唱を届けたいと思うだけで、そこにひとつの素晴らしい行動が生まれます。クラスの片隅で行われているそのような行動が、合唱を良いものへと変えていきます。生徒みんなが主役になっていたこと、様々なドラマがあったことが私の心に一番に響いたことでした。そして、良いものにしようという気持ちが全員にあるからこそ、人の心に響く素晴らしい合唱だったのだと思いました。

どんな行事も活動をしていく中では、班やクラスメイトで話し合う機会が多くなり、自分の意見が取り入れられたり、他者の意見との食い違いが起きたりします。合唱コンクールなどの

「賞」が関わってくるような行事では、「目標」ができます。目標は人それぞれですが、目標を決めて達成するためには、どのように多様な考えをもつ他者と対話や協働するかが重要になります。その過程で、クラスメイトとの衝突や対立もあるかもしれませんが、衝突や対立そのものは悪くはないのですが、そんなときに避けなければならないことが、いわゆる「キレる」ということです。感情をコントロールができなくなると、勢い余って言うてはいけない言葉を口に出したり、暴力に至ったりする危険性が出てきます。そうなる前に自分の考えを伝え、相手の考えを受け入れて他者の気持ちを考えた言動をすることが大切です。感覚が合わない人、意見が違う人、不満を言ったり、誰かの責任にしたり、仲良しにならないことがあります。それは中学校時代だけに起きる話ではなく、社会に出ても、大人になっても起こる当たり前のことです。大切なことは自分とは合わないから嫌い、ヤダではなく、価値観や感覚が違っても互いに相手を尊重して生活していくことです。多様な人と接し、対話することで世界が広がり、新しい価値観や考えを学ぶことができます。一人ひとりがそういった他者を尊重したことで安心・安全な環境がもたらされます。君たちはこの10月に多くの行事を経験しました。ぜひ、他者を思いやる言動を通して、春江中が一段と誰もが過ごしやすい学校になっていくことを期待しています。

最後に、お忙しいところ鑑賞にいらして下さった保護者をはじめ来賓の方々、何度も打ち合わせをして準備をして下さったPTAの方々、本当にありがとうございました。この場を借りてお礼申し上げます。